

第2回 北九州市小中一貫教育検討会議【議事録】

1 開催日時

令和3年2月2日（火） 15:00～17:00

2 開催場所

小倉北区役所 西棟5階 503会議室

3 出席構成員

12名（対面：7名、オンライン：5名）（構成員定数：12名）

4 次第

（1）議事

① 北九州市の校区の状況、小中一貫・連携教育の形態について

② 北九州市及び他都市事例ヒアリング

・北九州市立中央中学校

・宗像市

・宮若市

③ 今後の進め方について

5 会議経過

座長

早速ですが、議事を進めていきたいと思います。

議事の1番目、「北九州市の校区の状況、小中一貫・連携教育の形態説明」についてということになります。

事務局から説明をしていただいた後に、もし質問があれば、皆さんから質問をしていただきたいと思います。

それでは説明をお願いします。

根橋計画調整担当課長より説明【資料1】

座長

ありがとうございました。

事務局からの説明に関してご質問、ご意見があればお願いします。

前回同様、短時間でたくさんの資料や情報が提供されますので、なかなか読みこなしていくことが追い付かないこともあるかもしれ

ませんが、お気付きのことがあれば。

それでは私のほうから1点よろしいですか。

この校区の説明が出ましたが、学校の形態を考える際に、この校区割というのは前提にして考えないといけないのか、あるいは校区の線引きも含めて、学校種だとかその学校に合わせて検討するということもできるのかどうか、その辺のところはどのように考えてあるのか。

事務局 校区そのものを個別に変えていくかどうかという議論は、この会議の範疇外かなとは思いますが、テーマが小中一貫教育ですので、小中一貫教育を進めるにあたって、校区の在り方をどう考えるべきなのか、変更を含めて考えるべきなのかどうかというところは、この会議でご議論いただいて、ご示唆いただければ、我々でそれを基に検討していくというような形になるかと思えます。

座長 それでは、現状の学校、小学校や中学校の配置を見て、例えばもっと言うと、学校の面積だとか設置状況を見ると、隣接型が難しいだとか、一体型にすると地域の学校の配置に課題があるのではないかということまでは考えなくて、どういうスタイルの学校がいいかということを中心に議論していけばいいということになるのでしょうか。

事務局 おっしゃるとおり、基本的にはそのように考えております。
個別の議論までここで始めると、收拾がつかないかなと思えますので、まずはあるべき論を議論いただいて、その上で我々が個別に考えていくという形かなと思えます。

座長 ありがとうございます。
その他、ご質問・ご意見あればお願いします。

構成員 以前説明があったのかもしれませんが、施設の形態の実態を教えてくださいたいのですが。
北九州市はこの一体型が何校、隣接型が何校、分離型が何校、%でもいいので、教えていただければと思います。
今あるこの形を前提に考えていくということですよ。

- 事務局 はい、基本的に一体型の学校はないという形です。
隣接型、今回は中央中と八幡小みたいな、ほぼくっついているような状態のところや、先ほど申し上げたような、城南中や城南小学校みたいに道を挟んで隣のように隣接している場合はありますが、手元に隣接型が何校あるのかというのは持っていないのですが、今はほとんどが分離型の状況で一体型はないという形ですので、この会議では平成25年につくられた基本方針で基本的に既存の施設形態を前提に小中連携・一貫教育を考えていくということになっています。
- ただ、現状でそれでいいのかどうかということも含めて、この会議でご議論いただきたいなと思っております。
- 先ほどの繰り返しにもなりますが、個別の学校をどうしていくのかということのところまでは、ここでは議論しないつもりですが、北九州市としてそれを検討すべきなのかどうかというようなところまで踏み込んで、ご議論いただきたいと考えております。
- 構成員 もう1つ、統廃合になる予定とか、休校とか、そういうのはこの中で計画があるのでしょうか。要するに将来一つになってしまうとかいうのも入っているのでしょうか。
- 事務局 この地図上は、いくつかそのような議論がなされているような学校についても、掲載をしているというような形になっております。
- 構成員 統廃合もこの中からまた続いていくと思って良いですね。それともこのままの数で、このままでいくことが前提ですか。
- 事務局 個別の学校でその検討が進められているところもあります。
それと、学校規模適正化の計画を北九州市でもつくっているの、それに基づいて検討していくという形にはなっております。
- 座長 今、質疑応答もあって前回と引き続き、確認事項になるかと思いますが、北九州市の現状では一応小学校、中学校それぞれ配置し、小中連携教育ということでモデル事業などを積み上げてきたということになります。
今の説明にあったように、新しく文科省で義務教育学校という小中9年間を一体化するような学校種が出てきたので、それも含めて、

北九州市の今後の学校の在り方というのをどう考えていくのかということが、今回の私たちの役割になるかと思imasので、連携の在り方であるとか、あるいは適正化、統廃合とかということは、現在進められていますが、その上で、修正を加えて学校の設置の在り方を考えるということになります。

北九州市の取組としては、ここで示されたように、隣接型や一体型が他市においては先に取り組まれているということになりますので、取組としては少し後発型になるということにもなりますので、他のところがどういう検討や実施状況にあるのかということについても、今回この会議の中でも紹介していただきながら、検討していければというふうに思います。

次のこの議事に関わりますので先に進めさせていただきたいと思imas。

続きまして、議事の2つ目、北九州市及び他都市事例ヒアリングです。

本日は北九州市立中央中学校の則松校長先生にご参加いただいております。また、後ほどオンラインで、宗像市と宮若市にもご参加いただきます。

今回ヒアリングを行う趣旨や、簡単なお紹介を事務局のほうからお願いします。

事務局 今回の会議では、まず北九州市内の学校の小中一貫・連携教育の具体的な取組について、少しイメージを持っていただいたほうがいいかなと思imasので、中央中の則松校長先生にご説明をいただきたいと思imas。

その後、本市の近隣で、小中一貫教育を先進的に取り組んでいる自治体にご説明をいただいて、今後の北九州市の小中一貫教育の検討の参考としていきたいと考えております。

特に2つの市には、教育課程面での工夫ですとか、またそれを実現するための教職員組織の体制などの状況をご説明いただけるようお願いをしているところがございます。

まず、中央中の則松校長先生からご説明をいただきたいと思imas。よろしくお願いします。

則松校長 今ご紹介いただきました、北九州市立中央中学校の校長、則松と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私からは、お手元の資料2にありますペーパーをもとに、本市の小中一貫・連携教育の具体的な取組について、ご紹介させていただきたいと思います。

その前に、本市の中学校区で行われている小中一貫・連携教育を実施、推進するにあたって、中学校・小学校区の校長が連携をしながら、まずは何を柱に推進していくかということ話し合う場を、年度当初に設けております。

まず教育委員会の事務局に対して、この小中一貫・連携教育を推進するために、多大なご尽力をいただいているということに、まずもってお礼を申し上げます。中学校区の課題が多いということは、どの校区も一緒でございます。そういうことを前提に、人事の配置や加配など、職員の異動についていろいろな配慮をしていただいていると、どの学校にいてもそのように感じております。

さて、八幡小学校は、うちの中央中学校に隣接をしておりますが、開校142年目ということ。また、中央中学校は開校74年目ということ、非常に古い歴史のある小中学校でございます。

地域の諸団体の会長、また役員の皆様がここが出身校であるということや、通学路が小中学生同じ道を通って毎日通学してくること、朝夕の登下校の見守りをお願いしている地域の皆様も含め、いわゆる「おらが学校」ということで、学校愛にあふれる小中学校でございます。

そういう中で、小中一貫・連携教育を推進しております。

まず、資料2点目の最初、児童生徒の交流について、少し説明をさせていただきます。

実はこれについては、どの中学校区でもほとんど実施している内容です。最初に、児童生徒会議、本校では小中ミーティングをやっていますが、これは児童会・生徒会が合同で学校生活の改善点を中心に話し合いを行っています。

年に2、3回実施をしますが、中学校区においては頻繁にこれを行っている校区もあろうかと思います。年間計画の作成、それから実践を振り返り、次年度に活かすことを目標にこの小中ミーティングを実施しています。

どんな内容かと言いますと、例えば、小中連携交流挨拶運動のこと、それから学校生活のルールを検討する会議、また、いじめ防止対策、ブルーリボン運動と言われるもの。また、環境への取組、ペットボトルのキャップ回収等、また、年賀状の作成等も含めて、そ

ういう取組を計画・立案をしながら小中合同で実施をしているところ
です。

2点目の小中連携交流挨拶運動です。写真が少し掲載されていま
すが、中学校では毎月行い、学期に1回は、小中合同で通学路と正
門に立って、のぼり旗、スローガンを掲げながら挨拶運動を実施し
ているというところ。当然ここには地域の方々も多く参加しま
すので、地域一体型の小中連携になっていると思っています。

3点目、昼休みのグラウンド共有時間です。

これはどの学校もというわけではないと思います。八幡小学校、
中央中学校ならでの取組です。

具体的には、八幡小学校のグラウンドというのは、市内で唯一天
然芝のグラウンドでございます。したがって、10月、11月に芝生
の養生期を迎えた時には、児童がグラウンドで遊べない、体育の授
業ができないという時期が1ヶ月半ぐらいあります。その間は、昼
休みも体育の授業も学童も全て中学校のグラウンドを共有します。
十分な広さがありますので、そこで、小中合同でいろんな取組をや
っているという、中央中学校ならでの取組です。

また、次に上げている文化発表会や学校行事に、イレギュラーで
すが小学校が見学に来たりすることがあります。例えば文化祭の演
劇に小学生が見に来たりとか、入学式の入場の時に6年生が来たり、
温かい風景が見られます。

そういうこともいろいろ計画できたりなど、隣設しているとい
うところのメリットだと思います。

それから中学校入学説明会においては、教師の説明ではなく、生
徒会の生徒が寸劇や説明を行うという取組もやっています。

続いて、教職員の交流です。

これはほとんどの中学校区で行われていることです。例えば中学
校から小学校への応援授業というのを本校でもやっています。特に
保健体育、理科、家庭科そういったものを中心に、それから英語、
外国語活動も含めて中学校の先生方が積極的に小学校の乗り入れ授
業に参加をしております。

これは他の中学校区でも教科がいろいろと違うというところは一
般ですが、乗り入れ授業については、どの中学校区でも行われてい
ることだと思います。

それから、学校保健行事における養護教諭の連携。これも非常に
大事な連携だと思います。

また、両校のグラウンド整備における校務員の先生方の連携も非常にありがたいなと思っております。

また卒業式、入学式の準備、これも大変なのですが、小学校の入学式には、中学校の職員が総出でお手伝いに行きます。また、逆に中学校の卒業式の準備には、小学校の職員が総出で会場準備を手伝っていただきますので、ある意味、業務改善にもつながっているのではないかと思います。

それから一番大事なのが、最後の授業をとまなう校内研修の連携です。これも小中連携で、学力・体力向上、道徳教育、人権教育もありますが、そういったいろんなテーマで、校内研修で授業参観を行っておりますが、この校内研修を小中合同で頻繁に行うことができているのが、非常に職員の連携を深めているなと思えます。

最後に、学校・家庭・地域との交流というところで、特にご紹介したいのは、本校のキャリア教育の推進で、「大人としゃべり場」という大きな行事があります。写真で見ただけのように。全校生徒が200名ちょっとですが、地域の自治会の方やいろんな方にコーディネートしていただいて、本校の教職員は1人も関わりませんが、本校の体育館で生徒1人に対して、講師1人、要は200数十名の講師を集めていただいて、将来のこととか、大人になったらどういうふうに仕事をするのかとか、そういうことを5分おきに、いろんな人と、内側の円と外側の円でお話をさせていただきます。テレビなんかでもよく放映されていますが、この「大人としゃべり場」というものを計画していただいて、なかなか他の学校ではできないことですが地域の協力でこういう行事も行っています。

当然、防災訓練、また避難訓練それから地域の運動会、そういったものも八幡小学校、中央中学校、合同で地域の力を借りながら実施しているという連携の事例もございます。

いずれにしても、今ご紹介したいいくつかは中央中学校ならではないという事例はありましたが、ほとんどの取組はどの中学校区でも行われているというふうに認識をしております。

一番大切なのは、子どもたちが9年間を見通して、そしていわゆる中1ギャップというところでつまづかないように、小学校、中学校の職員が協力をしながら、生徒の育成にあたっているというのが、本市の小中一貫・連携の特徴ではないかというふうに私は個人的に感じております。

前任校が非常に大きな学校でした。八幡西区の永犬丸中学校とい

う学校で、3校から集まってくる大きな学校でした。その前の学校は、千代中学校といった中規模校でした。今、八幡小、中央中は非常に小規模校でございますが、大規模・中規模・小規模に関わらず、その校区には大きな教育課題があると思っています。この柱を、明確にすることが校長の役割としては一番ではないかと思えます。

そういったものをスクールプランや、年間指導計画に反映させることで、あとは職員がそれぞれ連携をとって進めていただけるということで、私個人としては非常に組織的にどの学校もやっていたいていると思えますし、それを支えていただいているのがやはり教育委員会ではないかと思っております。最初に申しましたように、そういう配慮がなければ、こういった取組はなかなか難しいのではないかなと今でも感じております。

まとまりのない説明になりましたが、以上でございます。

座長

ありがとうございました。

ただ今の則松校長先生へのご説明に対して、ご質問がありましたらよろしくお願ひいたします。

構成員

大変ご丁寧な説明をいただきまして、ありがとうございました。

大変興味深い内容だったので、3点ほど教えていただきたいと思えます。

まず1点目、中学校区の課題が小中一貫・連携教育の柱になっていると、私自身がそういう視点で見えていなかったのととても感銘を受けました。校区の取組の課題が、当たり前のことなのに気付けていなかったなと思ってですね。

小学校の校長先生たちとこれを共有するということが大事だと思うのですが、中学校区の課題というように校長先生が意識されることを小学校の先生方、校長先生と共有できるか、また、それを中学校の先生方、各小学校の先生方が校区の課題を取組の柱としてしっかり意識していただくために、どのような工夫をされているかということが1点目のお尋ねです。

2点目が、応援授業、乗り入れ授業ですが、相互というのを他の資料では拝見したことがあるのですが、相互乗り入れというのが現実にはどうなのか、難しさがあるのならどういったところなのかということをお聞かせください。

最後に、授業をとまなう校内研修の連携ですが、現実的に時間設

定が大変難しいのではないかなと思っています。どのような授業を、どのような時間帯で、どんなふうに工夫して実施しておられるのか教えてください

則松校長 ありがとうございます。

まず1点目、どのような共有をするかという工夫ですが、小中一貫・連携教育は私個人的に感じているのは、複数の小学校から進学してくる子どもたちを考えると、どうしても中学校区の課題としては、中学校の校長がリーダーシップをとるべきではないかなと思っています。

ただ、私自身もそうだったのですが、異動した直後というのは、なかなかその校区の課題が見えない時があります。その時は、いくつかの小学校に出向いて、小学校の校長先生にいろんなことを学ばせていただく。そして、教頭先生と一緒に地域を回ったりしながら、地域の方にも課題をリサーチしていくということで工夫をしています。ただ、情報収集したものを、校区の小中学校で、まずは校長先生方で共通理解をしないといけない、というのは一番の課題だと思っています。そこがスムーズにいけば、小中一貫・連携というのがスムーズに流れていくのではないかなと思っています。

決してその小学校の校長先生が何もしていないというわけではございません。小学校の校長先生方もやはり課題を解決するためにいろんな柱を立てられていますので、最大公約数をどうかき集めていくかというところが課題だと思っています。

それから2点目の応援授業ですが、本校の場合は、中学校から小学校に行く応援授業が多いのですが、家庭科室とか理科室の施設は、中学校のほうがとても充実しているということで、ある特定の授業の単元については、小学生が中学校の教室を使って授業をしたりしています。

この時には、小学校の先生方が中心になって、授業を展開していただくのですが、中学校の先生方も専門的な知識・技能を持たれた方が協力に行きます。小学校の先生方が来て、授業をやっていたいている、そしてそれを中学生も目の当たりに見えていますので、「久しぶりに小学校の先生を見たな」とか、そのような校舎への乗り入れは頻繁に行っております。

ただ、授業の内容についての乗り入れというのは、小学校の先生方が中学校の免許を持っているというのも条件になるでしょうし、

またアシスタントティーチャーとして、いわゆる保健の授業とか、そういったものには小学校の先生が乗り入れてやっていただいている授業もいくつかあります。ただ、非常に難しい課題だなと思います。

3点目の時間の設定です。校内研修授業の時間の設定ですが、八幡小学校、中央中学校は互見授業をやっているのですが、先ほどご指摘のように、一度に全ての教職員が集まるというのは非常に難しいです。したがって、教務主任同士がうまくローテーションを組みながら時間をずらして設定をします。

そうすると授業が空いている先生、また、教室の子どもたちを他の先生にまかせて小学校の先生にも来ていただくとか、または中間考査や期末考査の午後から中学校の全く授業がない日に、小学校に行ったりとか、そういったこともさせていただいております。教務主任が非常に工夫をして、時間の設定をしているのが現状でございます。以上でございます。

座長 ありがとうございます。
 次の構成員の方どうぞ。

構成員 今の発表を聞きながら、非常に積極的な連携教育をなさっており、非常に素晴らしいなと思います。

 その中で1つ確認したいのが、中央中は、実は皿倉小学校からも来ているんですね。皿倉小学校は2つにまたがっているので、非常に難しい。先ほど事務局からご説明があったように、型として施設一体型、施設併設型、施設分離型と大きく分けられますが、施設分離型でも例えば大きく2つ、分離進学のあるケースと、とにかく2つの小学校が全部1つの中学校に行くようなケース、これは全然違うので、先生のところは、非常に環境的に厳しいと僕は思います。

 なぜかという、皿倉小は尾倉中と中央中と2つ行くけど、八幡小はみんな中央中に行くのですかね。

事務局 はい、ほぼ全員。

構成員 そういう中で、今日は八幡小学校と中央中における小中一貫・連携教育の話でしたが、どうしてここに皿倉小がないのかなと思ったのです。

これはほぼ一貫教育に近い連携教育をなさっているのですが、今のような環境的な難しさがあって、おそらくあえて連携教育という形で進められているなと思うのです。

他の地域を見ると、ものすごくありますよね。施設分離型でも、本当に全て2小が全部中学校に行くというケースは、なかなかやりやすいのですが、2つに分けるという分離進学が、かなりあるのですね。それも施設分離なのです。

なぜそんな話をするかという、小中一貫の連携を進めていく時には、全く違う取組だと思うのです。義務教育学校のケースと施設一体のケースと施設併設型のケースと施設分離型でも1と2があって、みんなが行くケースと分離するケース、今5つ言いましたが、文科省がトータル的に成果を出していますが、全然違いますよね、比較自体がナンセンス。

その中で、則松先生の発表を聞きながら、この与えられた環境の中で、最大限のメリットを出そうという努力をしているなと思いました。だからどうしても難しいのは、小中一貫にするならば、目標を15の春の子ども像にして、コアカリキュラムをつくっていけば、これはもう素晴らしい一貫教育になると思うのですが、どうしても皿倉小と八幡小とのつながりがあるので、やはり連携教育でしかできないということできていると思います。

その中で、人事のことで随分手厚く教育委員会にしてもらっているということですが、その人事の中身、1つは乗り入れ授業、兼務教員、この辺りはおそらくこれは人事でないと、例えば先ほど保健体育・家庭科・英語で乗り入れと言われても、人が来なかったらできません。だからその辺りの教育委員会とのタイアップができていいのか、もしそれができていなかったら、言葉は悪いのですが場当たりになるのですよね。

今回は、例えば英語はできる、でも来年は人事上できなくなったとか、これが一番いけないです。その辺りの人事というところで連携ができていいのか、質問自体が答えにくいと思いますが申し訳ありません。

もう1つは、学園コーディネーターとか加配の先生、こういうのはいかがでしょうか。

それと、おそらく学校運営協議会の設置、ここがおそらくコントロールしながら、今後進めていかれると、地域とともにある小中連携教育として、非常に素晴らしい取組になるのかなと思います、非常に

勉強させてもらいました。

座長

その回答もあると思いますが、後ほどに回していただいて、先進事例を聞いたあとに、もう一度考えてみたいと思います。

というのはこの後、宗像市と宮若市の事例について報告をしていただくということで、オンラインに入ってきていただいていますので、そちらの報告から先にさせていただこうと思います。

両市の説明をしていただいた後に、ご質問などがあれば出させていただくという形になりますので、最初に宗像市様、よろしく願いいたします。

宗像市

こんにちは、宗像市教育委員会の村上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本来であれば、学校関係者もこの場でご説明ができればよかったのですが、本日は教育委員会から代表して説明をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日はこのような機会を与えていただきまして、ありがとうございました。

宗像市の概要についてまずご説明いたします。宗像市は中学校校区が7つございます。その全てで小中一貫教育を推進しておりますが、基本的には全て施設分離型の小中一貫教育になっております。例外で申し上げますと、大島学園、ここがこれまでは小中学校それぞれ一体型で学校がありましたが、平成30年度から義務教育学校という1つの学校にして、本年度3年目を迎えている状況です。

本日も説明させていただきます、日の里学園の例ですが、日の里学園につきましては、2小学校、1中学校で、西小学校と中学校は、道路を1本挟んだ隣接型、東小学校だけが少し距離が離れているという状況です。地図の中でお示ししておりますとおり、日の里学園の校区は比較的コンパクトな狭い校区になっております。その中で、取り組んできた小中一貫教育についてご説明させていただきます。

また先ほどお話がありましたが、宗像市については、基本的には小学校からは全て同じ中学校に進学する状況になっております。

この日の里学園ですが、平成18年度に市の研究指定という形で、小中一貫教育に取り組み現在に至っております。他の学園につきましても、年度ごとに1学園ずつ指定校を増やしていきながら現在に至るという状況です。

基本的な小中一貫教育の考え方といたしましては、前期4年間、中期3年間、後期2年間の計9年間で構成しております。6年生までは、施設分離型でそれぞれの小学校に通い、同じ中期ではありますが、7年生からは中学校で学ぶという形で進めております。

4年生までは、生活や学習の基盤づくりの段階、中期5年生から7年生までを小中の接続の強化段階、後期段階を小中一貫教育の充実段階というふうに、大きく分けて進めているところです。中期が一番複雑な状況で、小中学生が混じったような段階になっております。

この小中一貫教育を推進するにあたり、我々は大きく3つの視点でこれまで取り組んできました。組織運営を整えることと、研修・会議をしっかりと行っていくこと、それから指導体制を工夫していくことの3つです。

1つずつご説明をいたします。まず、組織運営についてです。基本的に複数の学校がある場合には、中学校には中学校の校務運営組織、それぞれの小学校には小学校の校務運営組織がございますが、それを1つの学園としての校務運営組織をつくり上げております。それが、我々が校務会議と呼ぶ組織でございます。

それぞれ校長部会、教頭部会等ございますが、校務会議という、全ての学園の代表者が集う会議を月1回程度計画しながらそこで学園に関わる内容をしっかりと協議するという形です。また、複数学校ございますので、その内1校を事務局校という形で指定して、これは各学園が決めておりますが、小学校が務める年度もあれば、中学校も務める年度もございます。日の里学園におきましては、年度ごとに順番回しというような形をとっております。

また、その事務局校には学園コーディネーターという市からの職員を1名配置しております。また、この校務会議には必ず教育委員会の関係者、基本的には指導主事が参加するという体制を取っております。

会議の実際ですが、基本的には学園の方針を定める会議ですので、学園全てに関わる内容について審議をする会議でございます。小中間で整備された分掌組織をつくり上げたり、計画的な会議研修を進めるための会議というふうにご理解いただければと思います。具体的には、大体月1回のペースで進めておりますので、年間11回か12回程度の会議が行われます。

令和2年度は、コロナの関係で計画通り進んでいないところがご

ございますので、お示ししている資料は令和元年度の日の里学園の会議日程でございます。そのうち第4回までの会議を右側に写真で少し詳しくお示ししております。基本的には4月であれば、年間計画であるとか歓迎遠足等、4月に行う行事の最終確認、また、1学期授業をどのように進めていくかというような内容を勤務時間内に、1時間から2時間程度設定して行っています。

参加者は、校長・教頭・主幹教諭等ですが、ここで決められたことが各部会に下されていき、それぞれの学校で会議等にまた下されていくというような形になっております。

この会議が開催されなければ、なかなか各学校が進められないところではございますが、基本的には学園の会議を最優先するという形をとっております。そのための工夫ですが、まず各学校の校務分掌組織、各学校の校長・教頭・主幹会の上に、今赤枠で示しているところですが、校務会議に参加するメンバーを必ず明記しております。

例えば校長部会に3名、名前が書いていますが、これが東小学校、西小学校、中学校の校長の名前でございます。このように各学校の校務分掌組織の中に必ず他の小学校、中学校の職員の名前を示して確認をしております。

また、人権教育のところの方が分かりやすいかと思います。人権教育という欄に名前が並んでいますが、これが東小学校の職員でございます。西小学校の職員、中学校の職員というように、同じ校務分掌組織を必ず全ての学校の中で位置付けて、担当者の名前も必ず明記するというような形をとっております。

同様に児童会・生徒会についても、児童会組織・生徒会組織まで3校揃えて進めるというようなやり方をとっております。

このように組織をきちんと整えていくことによって誰がどのような役割を担うのか、校務会議で決まったことを誰が実行に移していくのかというようなことまで、明確に決めているというのが日の里学園の特徴でございます。

それらを受けて、実際に行っていく会議の日程等を決めていくというような形になりますが、少し会議の内容が出てきていますので、2つ目の柱、職員研修・会議についてご説明をいたします。

会議にも様々な種類がございます。

1つは合同職員会議というものです。これは年度初めに学園の全職員が集い、校長部会から学園経営構想について説明を受けるとい

う形でございます。これは本来各校で行われるものではございますが、それに先だって学園としての会議をしっかりと行っております。

後ほどまた写真等もお示しいたします。

それから合同授業研修会、学園の研究構想に基づく授業公開を行い、学園の全職員で協議を行います。学園の研究主任部会で研究構想をつくり、学園内は1つの研究構想で研究を進めておりますので、授業研修会はそれに基づいて、学園単位で行うという形をとっております。

合同一般研修会、学園の全職員が学力向上、特別支援、生徒指導等の内容について合同で学ぶ場です。全てを行っているわけではございません。学園みんなで聞くほうが効果が上がるものについては合同の一般研修会行う。つまりこれ以外に各学校で行っている一般研修もございます。

それから、合同分掌部会、各校の同じ校務分掌を担当する職員が、全体計画や具体的な取組について協議をする場です。

さらには、合同の教科部会、各校で同じ教科等を担当する職員がカリキュラムや評価の在り方等について協議をする。これは日常的にはなかなか難しい会議ではございますが、スタート当初は、各校の通知表を9年間系統的に文言まで揃えていくということであったり、小学校ごとに行っているテストが全くバラバラというのが中学校での悩みがございましたので、その辺りもどうにか揃えることができなかつたというようなことも、この教科部会の中で検討された内容でございます。

これは写真でございますが、合同職員会議が4月、このように各校に赴任した先生だけではなく、学園に赴任した先生という形で紹介がなされる。また、校長部会の代表が学園の経営の説明を行うというような会議でございます。合同授業研修会の様子です。日程を揃えてしっかりとみんなで授業を見るというような形で行っております。

中学校の数学の教諭が、小学校の算数の授業を見た時に学ぶべきことが多いということで、小学校の教科書を開きながら、自身の教材研究を見直していったというような事例でございます。小中の垣根を越えて積極的に意見を交換し合うというような取組になっております。

それに向かう参加者等、それぞれの学校に誰が参加するのか、先ほど教務主任が調整するというような話もございましたが、このよ

うに一覧表を使って、誰がどの授業を見るのかというようなところまで計画的に進めているところです。

最後に指導体制の工夫ですが、ここは特に中期段階、5、6、7年生に係るところが中心なのですが、円滑な学びの接続、指導方法の統一、学び方や学習規律の統一ということで、小中学校をまたぐ兼務教員、中学校の先生が小学校で授業を行う、小学校の先生が中学校で授業を行う、または補助を行うというような取組を年間を通して行うことで進めております。

また、それに合わせて高学年の教科担任制です。基本的に小学校の教諭は空き時間がございませんので、中学校の兼務教員が1人、教科の授業で入ってくださることによって、小学校も教科担任が回しやすくなるというような特徴がございます。特に日の里学園につきましては、小学校が1学年2学級しかございませんので、5、6年生をセットで教科担任を組むというような工夫も行っております。つまり家庭科を担当する教諭は5年生も6年生も家庭科を担当するというようなことも行っているところです。

また、それらの取組を通して、各学園の中で学び方ガイド、学習指導の手引きのようなものもつくりながら、他の前期、後期の段階まで授業づくりの考え方を広めていっているところです。

小小間、小中間で規律や学びを揃えることで児童生徒の悩みを少しでも減らしていく、中学校になって突然学び方が変わるというようなことがないように心がけているところです。

また、これはなかなか難しいところもございますが、可能な限り小中学校で板書を揃えるというような工夫もやっております。

また、掲示物です。一貫した学び、学習で望むべき素晴らしい姿勢というのは小学校でも中学校でも変わらないんだということを、子どもたちにメッセージとして提示しているところです。

このように中期段階における中1ギャップの解消を目的とした取組というのが、一部教科担任制や兼務教員制度の形ではございますが、これが兼務授業の様子です。

上は理科の先生ですね、中学校の理科の先生が小学校の授業を行っている。下は中学校の体育の先生が、小学校で体育の授業を行っている状況です。

また、小学校で英語科になってまいりましたが、宗像市におきましては、特にやはり英語教育、中学校の先生が小学校で英語の授業というのが大変好評を得た状況ではございました。そのようなこと

も紹介いただいております。

専門性の発揮により、児童生徒にとって魅力的な授業が実現しているというような声が寄せられているところです。また、それらを踏まえて、小学校で教科担任制が進んでいくのですが、左下の写真、これは中学校では比較的馴染みのあるものかとは思いますが、教科担任制の連絡黒板、小学校の帰りの会で明日の図工で持ってくるものというのは、実は図工の担当の教員しか分からない内容ではございますので、中学校で行われている、教科連絡黒板のようなものを真似して小学校にも取り入れていったという事例でございます。先生方も役割を明確にすることで、責任を持って授業を行うことができているという形になっております。

また、補足の部分で、やはり小中学校である程度、例えば1時間目、3時間目、5時間目のスタートを揃えていくというようなところが教科担任制や兼務授業を行う上では有効な方法ではないかと考えております。

今、3つの視点で話しましたが、それ以外の部分で小小交流、小中交流というような取組もございます。小小交流につきましては、合同のキャンプや修学旅行、小中交流については合同の歓迎遠足、校区のクリーン作戦、9年生を送る会等で交流しているというような事例でございます。これも令和元年度の日の里学園のカレンダーではございますが、赤文字で示したのが小中交流、黒文字で示したのが小小交流という形で行ってまいりました。

歓迎遠足からスタートし、組体操補助のような中学生の取組等も踏まえて、最後9年生が卒業する折には1年生から8年生まで全ての子どもたちで卒業を祝うというような合同の送る会、このような取組も行っているところです。

コロナ禍においてはなかなか厳しい面もあり、今年はできなかったこともございますが、そのような取組を9年間積み重ねております。

小中学生が同じ時間を共有することで、下級生への思いやり、上級生への憧れや感謝の気持ちが育まれていっているということです。

小小交流についても、将来一緒に中学校に通う子どもたちが、事前に会う機会があることで不安や悩みの解消に繋がったり、夢や希望を膨らませるというような取組になっているのではないかと考えております。

先生方の負担も大きくはございますが、繰り返し行うことによっ

てそのノウハウも蓄積されて、今では比較的スムーズにこのような行事も行われているように理解しております。

大変早口で申し上げてまいりましたが、今後は学園のよさを、地域にも発信していく、地域からも愛される学園になっていくということを願いながら、小中一貫コミュニティ・スクールという取組も進めていっております。

学校ごとの運営協議会ではなく、学園運営協議会という形で会を設置して、地域のご意見をいただき、協力を得ながら、学園の子どもたちを育てていくというのが今後の宗像市の考え方でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。後ほどご質問等ございましたら頂戴したいと思います。

座長

ありがとうございました。

続きまして、宮若市様よろしくお願いいいたします。

宮若市

こんにちは、こちらのほうは施設一体型の小中一貫校です。

宮若西小学校校長の野副と申します。

宮若西中学校校長の川上と申します。

よろしくお願ひします。

それでは開校についてですが、宮若西中学校が、市内の2つの中学校が1つになって、今年8年目を迎えます。小学校は、市内の5つの小学校が1つになって、4年目を迎えます。そして今の施設一体型の小中一貫校としてスタートして4年目となります。

本日は学校要覧を皆様方にお渡ししていると思いますが、この学校要覧を基に説明させていただきます。

開いていただいて下にページを打っておりますが、3ページをご覧ください。3ページの下に、学校の規模が分かるように児童生徒の人数と職員の人数を載せております。

学校の規模は、小学校が約530名、中学校が約260名、職員は小学校39名、中学校が26名です。小中学校とも各学年3学級の編成です。

それでは1ページをご覧ください。1ページの中ほど2、一貫教育の柱として本校は2つありますが、英語教育とキャリア教育、この2つの柱で教育を進めております。

本年度、福岡県の重点課題研究の指定を受けまして、外国語教育

の内容で3年次の研究発表を行いました。

そして、もう1つ、キャリア教育を1年生から9年生まで進めるようにカリキュラムを作成しており、各学年の発達段階に応じて進めています。

その下に教育区分を書いておりますが、4期の教育区分、前期Ⅰ、前期Ⅱ、中期、後期。この中期、5、6、7年生について、特に教育内容を工夫するように努めております。

次に、学校行事についてご説明をいたします。4ページに、1年間の学校行事を一覧にしてしておりますが、本年度、もしコロナの影響を受けなければこの予定で進めるところでした。かなり今年に変更しておりますが、昨年度はこの内容で進めてきました。

全校的な取組として、毎学期、始業式・終業式・修了式を行いますが、小中学生一緒にやっております。それから9月に小学校の運動会がございますが、中学生が出る場面もつくっております。中学の陸上部が模範のリレーを見せたりという非常に小学生にとっては刺激を受ける内容でした。

それから5、6、7年生、中期において特に活動をいろいろと工夫しているのですが、4月に部活動紹介を入れております。この部活動紹介は、始業式の時に5、6年生に対して行います。それから終業式の時は、部活動の表彰をしますので、その時も5、6年生がそれを見ます。この部活動には、5、6年生も入ることができるようになっております。

それから、期末考査を6月、11月、2月に中学生が行いますが、小学生もその準備段階として5、6年生で期末考査を実施しています。それから10月に中学校の文化祭がありますが、6年生も中学校の音楽の指導を受けて、合唱コンクールに出るようにしています。

もう1つここに挙げておりませんが、5、6、7年生の活動をつくろうということで、地域のボランティア清掃に5、6、7年生を縦割りにして、地域の清掃に出かけるようにしております。

次に乗り入れ授業について説明をいたします。

5ページの中ほど、乗り入れ授業と書いておりますが、乗り入れ授業は原則として、中学校の教諭が、5、6年生を中心に、年間にとどの教科も最低1時間はやりましょうという約束で入っております。

小中一貫1年生から9年生までの各教科のカリキュラムをつくっているのですが、その中に5、6年生のどの単元で乗り入れ授業をするということを明記して入るようにしております。

乗り入れ授業の成果について、技能教科、音楽・図工・体育そういったものについては、子どもたちにも刺激があって成果が上がってきていると思うのですが、国語・算数・理科・社会、この点については、なかなか中学校の専門性が引き出せないところが見えてきて、やはり小学校の専門性のほうが少し高い部分もありますので、そこはまた課題として挙げているところです。

次に、教職員の小中合同研修について説明をいたします。

3ページの6(4)、学校研究で何をやったというところですが、冒頭でもありましたように、県の重点課題研究で外国語を進めてきましたので、この3年間は小中で外国語を進めてきました。その前は、いろんな教科でやっておりました。

小中一貫校はできましたので、宮若市の指定を受けていろんな教科で部会をつくって、小中合同で研修をするということで研究発表会まで進めてまいりました。

それから最後に、施設一体型の教育の利点について考えてみました。一番は、やはり中1ギャップを解消できる。小学生、特に小学6年生にとっては、中学生になることへの不安が非常に少ない、日常的に中学生の姿を見ているので、中学生というのはこういうものだ、中学校生活というのはこういうものだというイメージできております。それから、中学生の刺激としては、部活動に参加している子どもたちの礼儀、こういったものがすごくお手本になるということです。

教職員にとっての利点ですが、生徒指導上の利点が大変に大きいです。例えば、中学校で問題行動が起こった時に、小学校の情報もすぐに得られる、小学校と中学校の教員が一緒になってその問題の解決に携われるという良さがあります。

保護者対応についても、小学校の時に保護者との関係ができておりますので、一緒にその対応ができるという特徴があります。

学校生活上のルール・学習のルール、こういったものも小中合わせて統一してやっていけるという良さがあります。

以上で本校の教育内容の説明を終わります。

座長 ありがとうございました。

ただ今の両市の説明に対して、ご質問があればお願いします。

構成員 宗像市教育委員会の先生、また、宮若市の校長先生方、どうもあり

がとうございました。

まず、宮若西小学校の先生にお尋ねしたいと思います。5つの小学校が、統廃合されて宮若西小学校が開校したということで、校区が随分広いのではないかと思います。実際に新しい校舎ができて、施設一体型で子どもたちにとっても、保護者にとっても、地域の方にとっても、非常に希望のある場所になっていると思うのですが、実際にどのような方法で子どもたちは通っているのかということを知りたかったので教えていただけたらと思います。

宮若市 5つの小学校が1つになりまして、その5つの中の1つ、一番大きい小学校の近くに本校はあります。その一番大きかった小学校の子どもたちは、全員徒歩通学です、近くです。

あとの4つの小学校がその周りにありますが、その4つの小学校の児童は全員バス通学です。スクールバスが10台出ております。530人中、230名ぐらいがバス通学をしております。以上です。

構成員 ありがとうございます。

では、同じように中学生は、自転車通学とかもあるのでしょうか。あるいは中学生もスクールバスを利用するのでしょうか。

宮若市 小学生はスクールバスで通学する子と徒歩で通学する子がいます。中学生はスクールバスに乗れませんので、自転車通学、バスに乗っていた子も、徒歩で2キロ近くの子は自転車通学を許可しておりますので、徒歩か自転車通学ということになります。

構成員 ありがとうございます。

座長 その他、ありますでしょうか。

構成員 まず宗像市に質問させていただいてもよろしいですか。

先ほど興味深く発表を聞かせていただいて、ありがとうございました。

これまで、この小中一貫教育に関して、よく指摘されているのは、この小中一貫教育の成否を決めるのは、取組の主役である教職員の意識改革に関わっているということです。

宗像市の取組を聞くと、もう本当にチーム学校というよりもチー

ム学園で取り組んでいらっしゃるって、どのようにして教職員の意識改革をここまでもってきたのか、その工夫点について、ぜひ教えていただきたいというのが1点目の質問です。

2点目の質問ですが、先ほどご紹介の小学校の中で1つは地理的に少し距離がある小学校もありました。地理的な距離、近さによっては、取組や交流活動も行いやすいのに行にくいのがありますが、その点について、その2つの小学校、特に遠い小学校の場合は、どのように地理的な遠さを克服したのかお伺いしたいと思います。

それから3点目、どうしても小中一貫教育を推進するにあたって、先生方に負担を与えることも多いかと思いますが、その負担軽減においては、どのように配慮しているのか、そして小中一貫教育の教職員に与える負担については、解消できるものと思っていますか。

よろしくお願いします。

宗像市

ありがとうございます。3つございましたが、重なる部分もあろうかと思います。全体的には、これまで生じてきた様々な先生方の負担などの問題については、宗像市の場合は、スタートが平成18年ということもあり、長きにわたって少しずつ解決してきたというような経緯がございます。

まず1つ目の先生方の意識に関わるようなところですが、スタート当初は、極端な言い方をすると、教育委員会からのトップダウンでございました。「もう、やるんだ」というような、ゴーサインのもとに全てが進んでいきましたので、先生方はかなり悩まれていたのではないかなと思っています。

実は私自身も当初スタートの折には、日の里東小学校の一教員でございました。まさに兼務教員という形で、中学校に授業に行っていましたが大変でした。ただ、これが1年、2年積み重なっていくうちに、先生方がその価値をやはり感じとっていかれたというのが大きな部分でございます。

実は当初、小学校で「教科担任をスタートしましょう」、「兼務教員でいきましょう」というゴーサインのもとで行われたものの、停滞の時期もありました。ただ、どの学園も教科担任は無くなりませんでした。苦労は多いが、その分得るものは大きいというような先生方の意識は本当にあったのではないかなと思っています。

逆に言うと、スタートが中途半端ではなく、ここまでのものをや

るんだという決定で進んでいきましたので、中途半端にやっていれば、もしかしたら消えていったのかなというような部分もあります。申し訳ありません、心の面だけで言っていますが、そのような印象はございました。

距離感に関しては、市から公用車を各校1台ずつ配置しています。これは日の里学園に限らず、全部の宗像市立小中学校に対して、市の公用車を1台ずつ配置しております。先生方はその車で、小中間の移動に活用するという形にしておりますので、そういった工夫の中で、全て行われているというような状況でございます。

それでも3つ目の質問にございますように、先生方の負担は大変大きいものがあるかとは思いますが、1つは、これも経験によって随分軽減されてきております。先ほど申し上げました校務会議、今1、2時間程度と言っておりますが、スタート当初はとて1、2時間で終わるような会議ではございませんでした。3時にスタートして、8時、9時まで校長先生方が帰って来られないこともございました。それぞれ主張がございますので、「小学校はそれでは困る」、「中学校はこうやりたい」というような意見が出されて、本当に5時間、6時間会議がなされておりましたが、それが今1、2時間にスリム化されて、先生方の工夫によって負担が少しずつ軽減されてきているような形もございます。

あと行事等についても、目的を明確にして、やることが目的ではございませんので、子どもたちの交流をメインにするのであれば、規模をこの程度に小さくできるのではないかというような先生方のご意見に基づいて、今の行事等はなされているところです。そのような工夫に基づいて、先生方が少しずつ負担をご自身で軽減されているような部分はあるかと思えます。

あと、市として行っていることは、先ほど学園コーディネーターという市費の職員の紹介をしましたが、県で言うと指導方法工夫改善教員にあたるような、市では学力向上支援教員と呼んでおりますが、そのような職員を各校に配置しております。

また、その職員については高学年の教科担任に活用してよい、市としてよいというような指示も出しておりますので、そのような人的配置については、教育委員会のほうでもできる限りの努力をしているところです。

すみません、全てをお答えできているか分かりませんが、そのような形でやっております。

構成員 ありがとうございました。

座長 最後に、私から1つだけ宮若市さんに質問をしておきたいのですが、現在一体型で進めているということですが、この小学校・中学校という組織をそれぞれ持っているメリットというのがどういうところにあるのか。

 あるいは先々、学校自体を義務教育学校のような形に変えていくということまで考えているのかどうか、その辺について宮若市さんの現状と今後についての感触を少し教えていただければと思います。

宮若市 今、小学校は小学校で、校長・教頭・教務主任・その他、中学校は中学校で、校長・教頭・教務主任がいて、小中一貫校として足並みを揃えていくには、校長・教頭・教務の連携は必ず必要だということに進めておりますが、教職員のほうはそこまで必要性は最初感じていなかったです。それで、先ほどおっしゃったように、意識改革から始めないといけないと思ってそれを投げかけています。

 小学校・中学校それぞれが、しっかり教育を進めていくというのはもともと出来上がっていますが、それよりも、逆に一緒にやっついこうという意識を高めるほうが難しいというふうに感じております。

 今4年目となって、そこはだいぶ改善されてきたというように思っております。ただし、人事異動で市内に他に小学校が4つあり、中学校がもう1つあるのですが、そちらから異動してきた先生たちの意識をまた変えなければいけないというところに、力を注いでいるところです。以上です。

宮若市教育長 教育長の中村でございます。どうぞよろしく願いいたします。

 私は話を聞いている側にしようかと思ったのですが、「義務教育学校をどうするか」というご質問でございますので、私のほうからお答えをさせていただきます。

 まず結論から言いますと、最初は、いずれは義務教育学校にと考えなければいけないかなと思っておりましたが、現状で何の問題もありませんし、あえて義務教育学校にしなければいけないという意識では今はありません。それから今後どうするのかということについては、また今後考えねばならないことだというように思っております。

ます。

なぜ最初から義務教育学校にしなかったかということでございますが、大きく統合するという仕事と、小中一貫の施設をつくって小中一貫教育を始めるという、この2つのことがなされましたが、小中一貫にする、建物のほうが先にできて、そのあとで5つの学校を統合することにいたしましたので、順序から言うと、先に義務教育学校をつくるというのは、非常に難しかったという理由がございます。

それぞれの小学校、中学校の校長のご意見もあろうとは思いますが、小学校、中学校の良さは残しつつ、現在の教育活動が進んでおりますので、当然このままいくのかなというように自分では考えております。以上でございます。

座長

ありがとうございました。

先進事例というか、先に取り組んでおられる他市の状況なども踏まえながら、私たち北九州市の在り方についても考えていけたらと思っております。お忙しい中どうもありがとうございました。

それでは議事を先に進めたいと思います。続きまして、今後の進め方に移りたいと思います。事務局よりご説明をお願いいたします。

根橋計画調整担当課長より説明【資料4】

座長

ありがとうございました。

続きまして、本日のヒアリング内容や、今後の進め方について意見交換を行いたいと思います。遠慮なくご発言をいただければと思います。

先ほど、北九州市の人事のことについて質問が出ていて、先に他都市の事例を入れましたので、ここで先生から何か答えることがあれば答えていただこうと思います。

則松校長

先ほどのご質問の件ですが、1つは同じ校区にある皿倉小学校との交流について、今日は発表資料には入れておりませんでした。PTA活動、地域活動も含めて、できる範囲でできる行事の中では3校合同でやっているものもなくなはないというところでございます。

ただ、皿倉小学校から中央中学校に入学してくる生徒が毎年10名前後ということなので、皿倉小学校の保護者の意識としては、や

はりどうしても尾倉中学校との連携がメインになってしまうというのは否めないかとは思いますが。

ただ、そこを切り捨ててやっているわけではない、そこは少し誤解を解いておきたいと思えます。いろんな行事をやっていますが、折に触れて3校合同でやっている行事もいくつかあります。

人事のことは、私のほうからいろいろと言うべきことではないのですが、1つだけ、現在北九州市の人事交流の中で、小学校の教諭、中学校の教諭の交流が行われておりますが、これは非常に効果があるなど、八幡小学校と中央中学校間でも非常に効果があると思えます。専門性を持った職員、それから小学校の教諭でも中学校の免許を持っている方もおられますので、そういう交流というのはありがたいと思えます。

もっと言えば、本校の教頭は、小学校の体育が専門の教頭先生です。それから八幡小学校の教頭は、中学校の英語科の教頭先生です。これの何がいいかと言うと、いろいろと小学校・中学校の文化の交流をするのに、両方の教頭先生がものすごくいいクッションになっています。会議で、「小学校がこうだ」とか「中学校がこうだった」となった時に、「違うんよ、今そんなことを言われると小学校はこういうことが困るんです」ということを的確に説明してくれます。おそらく小学校のほうでも、中学校の教頭先生がそこら辺はうまくコーディネートをしてくれているのだと思えます。こういうところに、1つ感謝したいなと思っております。

全小中学校がそういうわけではないと思えますが、中学校の教頭先生が小学校で活躍している事例とか、小学校の教頭先生が中学校で活躍している事例はたくさんあります。そういうところも、また注目していただければなと思っております。

差し出がましいことを申し訳ありません、ありがとうございました。

座長

ありがとうございました。

それでは、今日のヒアリング、それから今後の進め方についてご自由にご意見を出していただければと思えます。

今日聞いた事例を踏まえて、北九州市の在り方について、こういうように考えるとよいのではないかなど今日の段階で感じたこととか、あるいはこういった情報がほしいということなどあれば、ご自由に出していただければと思えます。

構成員

あまり時間がないということなので、まだまとまっていませんが、感じるところを少し話しますと、前回と今回非常にたくさんの資料をいただきまして、随分北九州市の状況が分かってきました。校区再編とか、そういうことまで考えるのはちょっと別ですが、今の現状を考えると、この9ヶ年で子どもを育てるというのは、もう当たり前のことでありまして、それをしっかり推進しようという大前提がありまして、ただ、先ほど少し話しましたが、環境によって全然違うんですね、これは。ですから平成25年に出されているこの北九州市小中一貫・連携教育基本方針、これでいいのですが、まず、連携教育と一貫教育、そこをきちんと整理したほうがいいと思います。

今日の2つの発表は一貫教育です。つまり15の春の子ども像を明確にして、コアカリキュラムをつくって、そして施設は分離してありますが1つの学校として、共同体として子どもを育てるという一貫校です。北九州市の発表は、僕は連携教育の最たるモデル校だと思います。

それは環境が違うからですね。それを再編でできるならそれが一番いいのだけど、ですから今後の方針として、考え方ですが、これを土台にしながら9ヶ年の教育をどう充実するかということで、連携教育の中にももちろん一貫校は内包されますが、そこをきれいに整理しまして、そして一貫校でも施設一体型と施設併設型と施設分離型、施設分離でも分離通学のあるケースと、分離通学の無いケース、そうなる4つ。いろんなケースでどう充実させるかということ、最終的にはまとめればよいのかなど。

そして、各学校区で取り入れやすいものを取り入れていくというか、僕は宗像市も宮若市も一応関わっていた学校ですが、揃えるのが難しいですね。揃えると歪みが生じます。

ですから、いろんなケースが考えられるという基本方針を立てて、例えば中央中学校校区は、どの形がお互いに無理がなくていいのかなど、そういう基本方針ができるといいのかなと今のところ感じているところです。

これは、全然世界が違う研究です。一貫校の、しかも先ほどの宮若市は1つの学校です。同じ敷地の中に小中学校があるわけですから。

宗像市で一番困ったのは、大島は別として、もう各校全部、施設

が離れていますから、やはり向こうに行くだけでも大変です。しかも、毎日同じ空気を吸っていないですよ。 「同じ空気を吸っていないのに、小中一貫校でできるのかな」という不安を持ちながらも、そういうある意味ではいい環境ではない中でも頑張ったところもある。ですから、全然違うので、そのいいところをしっかりと整理して、では北九州市ではどうしますかということ。

ただ、教育委員会の施策として、「ここは一貫校でやってもらおう」とかいうことは、また別に考えないといけないけど、この基本方針というのは、やはり9ヶ年で先生たちが子どもたちを育てる基本方針かなと思いますので、まずは一貫教育と連携教育の定義をつけながらですね。

前回の基本方針には連携教育の視点はいっぱい書いてあるんですね。交流活動、それから学習指導、そういうのは全部活かせばいいので、ぜひそういう形で、整理ができないかなと。今のところそういうふうに考えております。

座長 他にいかがでしょうか。

今日1つの方向に整理する必要はありませんので、今日気付いたり、思っていることをむしろ出していただいたほうが、あとの会議で論点だとかいろいろ資料を準備しやすいので、いろいろ感じていることがあったらご意見お願いできればと思います。

構成員 校長先生のリーダーシップのもと、教職員集団がその気になればやればできるというのと、そこには行政の配慮というバックアップも非常に必要で、工夫というのもそれぞれに教えていただきました、非常に参考になりました。

前回からこの基本方針を見せていただいて、非常によく要点を網羅してよく考えられているなど、意義とねらい、それから重点を何に置くか、それからその後、丹念な環境整備ということで、そういうことは感じましたが、網羅されているだけに、やはり先生、学校は大変だなというのも感じました。

また今回のことを参考にすると、何のための連携なのか、何のための一貫なのか、そこがどうかすると一貫とか連携そのものが目的になってしまっていて見失いがちなところ、そこをやはりそれぞれ自分で、先ほど構成員が言われたように、いろんな状況がかなり違っている。

各地域で立地も違えば形態も違くと、それぞれの地域の課題とか特性に基づいて何をしたら解決できるのかというところに、こういう連携の形があればもっとより良い教育ができるし、子どもたちの学びに役立つ、そのところをそれぞれが独自に詰めていけるだけの幅を持たせるみたいですね、そういうような視点はすごく大事なのかなと思いました。

だから教育効果を上げられる中身を詰めていけるような、そういった体制づくりをしていくというのは非常に大事だなと思いました。

それと学校が大変だなというのは、要するに連携や一貫校のことだけではなくて、教育課題も今いろいろ文科省からも次々とあって、これだけ変化も激しい時代で、またコロナ禍でいろんな課題がさらに加速したとかGIGA スクール構想とか、そういったことも抱えている中で、やはり今社会に開かれた教育課程とか、インクルーシブ教育とか、教員の働き方改革も含めていろんなことが言われていることとの絡みで、やはり一貫とか連携をどう活かしていくのかということを見ていかないと、小中一貫だけではないので、それはあくまでも手段というか、もっとこうしたらこういう効果があるというところなので、そういったことも見据えていくべきと思いました。

これは感想ですみませんが以上です。

座長 ありがとうございました。

せっかくですので、時間がもうあまりないのですが、できるだけ簡潔にそれぞれの構成員の今感じている感想なりを皆さん一言ずついただきたいと思っているので、よろしくお願いします。

構成員 実際に、教育委員会それから学校がどのように考え、行動しているかというところを、なかなか我々地域の間人というのにはよく理解していないというか、分かっていないのが普通かも知れませんが、いつも考えているベースというの、地元の学校の先生たちの動きというのがある程度見えますから、どうやってその後援的な動きをとったらいののかなというところが、繋がってこないということも正直ありますね。だからそういうところが、やはり今進めようとしている部分の中に、学校運営協議会とかいう部分で地域との関わりですね。実際、中央中学校の「大人としゃべり場」に私も少し関わっていたのですが、やはり単発的な授業というのを、学校が年間通して考える授業の中で、どの部分が地域でサポートできるか、要

は時間をかけ、人も使うというところの部分ができるかという、なかなか地域サイドでは判断がしづらい。

そういう意味では、忌憚なく、先生のほうから、「こんなことしたい」、「ここで力を貸してくれんだろうか」というような話があると、地域もいろんな考え方に後押しされる。

中央中学校220人ぐらいの生徒さんがいるので、それと同じ人数の大人がいますよね。だから現実には校区の大人と、それでも足りませんので、八幡東区の青少年育成会で各地域から応援という形もやっていますから、そういうところも、こういうことがしたいというところを具体的に地域に振ってもらいと、地域のほうもそれに合わせる形の部分ができて、結果、連携とか一体感とかいうのが感じられるのかなと思います。

だからベースに、どうその地域が子どもたちを軸にした学校の取組に関わっていけるかというところが、今から先もっと見えるほうがいいのかという感じはあります。

座長 オンラインで参加している方にも発言をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

構成員 今日は中央中学校、宗像市、宮若市の取組を聞かせていただいて、小中一貫教育の図が大分描けました、ありがとうございます。

今後、平成25年度の「小中一貫・連携教育基本方針」の検討に入ると思うのですが、子どもの9年間の育ちを考えた時に、子どもの立場に立って、やはり学びのスタンダードとか、生徒指導のスタンダードとか、宗像市の方が言われていたことが、とても私は大事に感じました。ありがとうございます。

座長 それでは次の構成員の方、お願いします。

構成員 今日はどうもありがとうございました。

事前に送っていただいた資料等を読ませていただいて、文科省の資料が古いというふうになっていましたが、やはり現場の人間からすると、アンケートの結果はこの通りなのだろうと思いました。

そして小中一貫が一番よいというふうに考えました。実務的にやっている者としては、小中をコーディネートする人、やはりそこを繋ぐ人が一番大切かなと。

今までも連携教育をやってきたのですが、やはり八幡小と中央中学校は本当にうまくやっているんだなど。条件も整っているのかなと思ったのですが、これまで自分がいた学校でそこまでうまくいってなかったなと思うので、これから進めていく上では、やはり前回も思ったのですが、人との交流と人の研修が重要かなと思いました。ありがとうございます。また意見のほうは書かせていただきます。

構成員 本日は様々なご提案、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

今後も進めていく上で、先ほどもありましたように一体なんのための一貫なのかというところを、私たちがしっかりと見ていく必要があるかと思えますし、取り組むにあたっては、それぞれみんなが希望を持てる取組を進めていくということが大事かなと感じました。

平成25年から進められている一貫・連携教育が十分に進行していないという原因に、やはり我々全ての人間が目的や効果、その良さ、また具体的なニーズというのを十分に認識、理解できていない部分もあったのではないかなということと、その良さは分かっているながら、やはり多忙感に追われてというところも実際にあるかと思えますので、そういったところをいただいた意見、ご提案も活かしながら進めていけたら、現場としてはありがたいかなというふうに感じました。ありがとうございました。

構成員 本日はありがとうございました。

それぞれの中学校で別々のルールがある場合、そういったところの意識の摺り合わせといったところが、今後課題になってくるのではないかと感じました。

また、自分が実務にあたる場合について、校務運営体制の構築がとても重要なのではないかと感じました。先ほどもおっしゃいましたが、パイプ役になる人間の位置付けというものが、校務分掌の中にあるのか、もしくは教育委員会のほうから来ていただけるのかというところもあるのですが、こういった方の存在というのがとても重要になると感じました。他の意見につきましては、また書かせていただきます。ありがとうございました。

座長 構成員の皆様ご意見ありがとうございました。

今日十分にお時間とれなかったもので、後ほど気付いたこと等あれば、また事務局にご連絡をしていただければと思います。

続いて、次回のスケジュールについて事務局からご説明をお願いします。

根橋計画調整担当課長より説明【資料5】

座長 ありがとうございました。

最後に教育長から本日の構成員の発言等に関して感想などをお話しいただきたいと思います。

教育長 本日は様々なご意見、また先進的な事例をご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。

感想というより、中央中の則松校長がおっしゃっていただいたことに対しての教育委員会としての今の方針を少しお話しさせていただきたいと思います。

小中連携・一貫教育、子どもたちのためにやりたいということで、その手段と目的をはき違えないということは大変重要だと考えております。

その中で、なかなか難しい部分が、組織をつくるという以外に、教職員の意識改革、あるいは小学校・中学校の文化に関しては、すぐに変えられるものではありませんので、実は北九州市の教育委員会では、則松校長がおっしゃられました、教頭先生が中学と小学校とをたすき掛けで配置しているのは、それぞれの文化を紹介してもらったりだとか、あるいは調整してもらうのに非常にありがたいというご説明いただいたのですが、そこはですね、ポストによっては、前々から意識的に小学校の文化、中学校の文化を少しそこで入れて、内部のほうから教員のそういうような意識を少しずつ変革していただけたらというところで配置しているところでございます。

今後もこの事業を進めていくためには、まずは先生方の意識を変えていただいて、そしてまた教員の先ほど何度もお話に出ていましたが、負担感を軽減すること、それをいろんなところで、これから研究させてもらいたいと考えております。以上でございます。

座長 ありがとうございました。

本日の議事は以上とし、進行を事務局にお返しします。

事務局

ありがとうございました。

最後になりますが、本日の会議の議事録については、市のホームページで掲載する予定です。議事録全体の確認は、座長にお願いをいたします。

最後になりますが、先ほどご案内のありましたとおり、本日ご発言できなかったご意見などにつきましては、電子メールか、お手元の「意見聴取票」にご記入の上、ファックスいただければと思います。よろしく願いいたします。

それではこれもちまして、第2回会議を閉会させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。